

# 研究協力をお願い

昭和大学藤が丘病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

大腿骨遠位骨切り術で注意すべき膝窩動脈の肉眼解剖学的特徴

## 1. 研究の対象および研究対象期間

対象：2024年9月1日から2024年9月30日に昭和大学解剖学教室の同医学生の解剖学実習で献体解剖体として準備されたご献体。

## 2. 研究目的・方法

若年時の外側半月板損傷の既往や半月板部分切除術の既往、先天的な外反膝により、膝関節の大腿骨と脛骨間の外側関節軟骨の変形性と欠損が生じ、進行すると高度の外反変形や外側荷重部脛骨深部の骨欠損を認めます。そのような変形性膝関節症による疼痛が生じている患者さんへの一つの有効な手術術式として、内側閉鎖式大腿骨遠位骨切り術があります。これは、外側にある荷重位置を骨切り矯正により内側寄りに移動させ、疼痛を改善する手術です。対象は活動性が高い若年者で、人工関節置換術を行うには、将来的な弛みや活動の制限が生じるため、適応外の患者さんです。手術の際、大腿骨遠位後方を剥離展開、さらに後方を電動ソーやノミで骨切りを行います。大腿骨後方には膝窩動脈が走行しており、諸家の報告では大腿骨後方骨皮質から膝窩動脈までの距離は約5mm前後、膝関節部から股関節側に向かって中央後方から内側前方に走行するとされ、術中膝窩動脈損傷の合併例の報告も散見します。しかし、膝窩動脈走行は個体差があると考えられます。本研究の目的は、当院でのご献体20例において、大腿骨遠位部での肉眼的な後方骨皮質から動脈までの距離と、走行を調べることで、安全な大腿骨遠位骨切り術の手技確立への寄与に貢献できると考えます。

## 3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2026年3月31日まで

## 4. 研究に用いる試料・情報の種類

献体膝で測定した数値と、測定部位を写真撮影した画像を使用します。電子カルテ内の患者背景や術後臨床症状などの情報は使用せず、患者性別、年齢のみ使用します。治療歴等カルテ情報は一切使用致し

ません。

## 5．外部への試料・情報の提供

なし

## 6．研究組織

研究責任者      研究機関名 昭和大学藤が丘病院 整形外科      氏名 瀬上和之

## 7．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘病院

氏名：瀬上和之

住所：横浜市青葉区藤が丘 1 - 30

電話番号：045-971-8851